

西多賀小教育目標 「健康でたくましく、心豊かで、意欲的に学ぶ児童の育成」

協働型学校教育目標 「互いに助け合えるあたたかい心をもつ児童の育成」



# 学校だより

ウェブページURL : <http://www2.sendai-c.ed.jp/~nisiitaga/>

## 夏休み前日号

仙台市立西多賀小学校

令和2年8月7日

在籍児童数：494名

TEL245-5355 FAX307-1604

## いよいよ明日から夏休み！

長かった梅雨も明け、毎日暑い日が続いています。8月3日から7日までに行われた個別面談に来校いただきありがとうございました。今年度は、感染症防止対策により、授業参観や懇談会が行われなかったため、初めて担任とお会いした保護者の方も多かったと思います。短い時間でしたが、直接お話をすることができ、子供の理解を更に深めることができました。今後とも、ご家庭と協力しながら、教育活動に努めてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

さて、いよいよ明日から子供たちが楽しみにしていた夏休みが始まります。8月8日から18日までの11日間と例年より短い夏休みとなります。事件や事故に巻き込まれたりすることなく、有意義な夏休みとなるよう、事前にお子さんと一緒に一日の過ごし方について約束事を決めたり、計画を立てたりしていただければと思います。



## 8・9月の主な行事予定

### 8月

- 11日(火)～14日(金) 学校閉庁日
- 19日(水) 夏休み明け朝会 全校4校時限 (給食なし)
- 20日(木) 給食開始 普通授業
- 21日(金) 社会学級
- 28日(金) 学校評議員及び学校関係者評価委員会
- 31日(月) 5年生野外活動保護者説明会

### 9月

- 1日(火) SC勤務日
- 2日(水) 代表委員会



- 7日(月) 委員会
- 8日(火) SC勤務日
- 10日(木) 集金日 全校5校時限
- 11日(金) 3年生校外学習 (生協見学) 全校5校時限
- 14日(月) クラブ活動
- 15日(火) 5年生野外活動 ～16日(水) SC勤務日
- 18日(金) 全校5校時限
- 23日(水) PTA運営委員会
- 25日(金) 6年生校内陸上記録会・修学旅行説明会
- 28日(月) 5年生校外学習 (トヨタ自動車工場見学)
- 29日(火) SC勤務日
- 30日(水) 6年生特別授業 (薬物乱用防止教室)



## ◇交通事故防止のために◇

「西通門」前の道路は、道幅が狭い上に、交通量も多く危険なため、登下校の際に「一列で歩く」「道路に出る際は、左右の確認をする」などの指導をしてきました。

この度、PTAの予算から補助を頂き、人感センサー付きの回転灯を設置しました。子供たちが、西通門を出入りする際、センサーが反応し、回転灯で自動車へ児童の通行を知らせます。



他にも、286号線側から来る車に通門があることを知らせる看板や児童へ向けて「右みて左みて」の看板も設置しました。また今後、区の道路果に道路ご注意喚起のペイントをしていただくことになっています。ご家庭でも交通安全のお声掛けをよろしくお願いいたします。

## <お知らせ>

〇これまで名札の販売をお願いしていた「文具の宝沢 西多賀店」さんが8月いっぱいまで閉店することになりました。今後の名札の販売方法については、後日お知らせします。

〇仙台市長からのメッセージ「短い夏休みを楽しもう～児童生徒・保護者の皆さんへ」のリンク先が学校のWEBページに掲載してあります。どうぞご覧ください。

西多賀小学校のみなさんへ (かん字がむずかしいときは おうちの方に読んでもらってください)

## 校長先生のむかし話② ～「ぼくはどうしてここにいるの？」～

板垣 和幸

みなさんは今、「ふしぎ」に思っていること、知りたいことはありますか？

校長先生は、まだ小さいとき、ふしぎに思っていることがたくさんありました。その中で特に「ふしぎ」だったことは二つ、「赤ちゃんはどこから来るの？」ということと、「ぼくはどうしてここにいるのだろうか？」ということでした。

校長先生はお母さんに、「赤ちゃんはどこから来るの？」って、いつも聞いていたような気がします。校長先生はそのころ、赤ちゃんがお母さんのおなかの中から生まれてくるということは知らなかったもので、「どこから来るの？」という言葉で聞いていたのです。そのことにお母さんは「赤ちゃんが生まれてくる“みち”があるのよ。」と答えてくれました。その言葉を聞いて、校長先生は頭の中で、赤ちゃんが細い道をよちよち歩いてくる様子を思い浮かべていた記憶があります。生まれたての赤ちゃんは歩けないのに、校長先生の頭の中の赤ちゃんは、「みち」を歩いていました。みなさんは変に思うかもしれませんが、そのときは本当にそう思っていました。赤ちゃんがお母さんのおなかの中から生まれてくることを知ったのは、それからずっと後のことでした。

「ぼくは、どうしてここにいるのだろうか？」この「ふしぎ」については、校長先生が小さいとき、いつも心の中で思っていたことでした。「物心ついてから」という言葉がありますが、校長先生が自分というものを意識しだしてから、ときどき思うようになったことでした。もともとなかった校長先生の「いのち」が誕生し、そして自分というものを心で感じるようになることが、校長先生は「ふしぎ」だったのです。言いかえると「ぼくはどうして、他の人として生まれたり、イヌやネコなどで生まれたりするのではなく、「ぼく」として生まれたのだろうか？」ということです。それが「ふしぎ」でした。そんなことを思ったりしながら、校長先生は、いろいろな人に支えられ、いろいろな経験をしながら今まで生きてきたのです。まだまだ人生は続きますが、振り返ってみると、とても楽しい時間を過ごしてきたなあと思います。

そんなふうに思うと、「いのち」ってとても大切だと、心から思います。だんだん大人になって、この世の中にある全ての「いのち」はとても大切だと思うようになりました。今、みなさんが「自分」を感じている「いのち」は何にも変えることができない、とても尊いものです。この世に生まれてきたみなさんの「いのち」を大切にしていくこと、それは自分が一日一日を大切に過ごしていくことだと、校長先生は思います。よく学び、よく遊び、たくさん笑いながら、精一杯元気に過ごすことが、自分を大切にし、自分の「いのち」をも大切にすることになるのです。

「いのち」と「こころ」は同じものです。だから、友達「こころ」を大切にしながら仲良く生活することは、人の「いのち」を大切にしていることにもなります。逆にいじめてしまったり、意地悪したりすることは、人の「心」を大切にしていないこと、「いのち」を大切にしていないことになるのです。

この世の中の「いのち」はどれも大切です。そこには「心」が必ずあるからです。ぜひお互いに「こころ」が温かくなるような、そんな生活を心がけて行きましょう。家族や友達が笑っていると、自分もうれしく笑顔になりますよね。そんな毎日を過ごしたいものです。